

Miyagi

まちづくりと 地域支え合い



CONTENTS

2 MIYAGIの今 05 気仙沼市
サロン活動が急増中！アクションプランも策定

3 MIYAGIの今 06 大崎市
柔軟な庁内連携で、地域の福祉力を高める！

4 先進の地から〈3〉福島県会津美里町
地域訪問を重ねて地域の資源・課題を発掘

6 2015年度 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議の活動報告

8 2016年度 宮城県「生活支援コーディネーター養成研修」のご案内

歌や体操が飛び出して盛り上がる「水梨かふえ」。
気仙沼市が始めた助成事業で、市内にサロン活動が急増中
(詳しくは本紙2頁へ)

宮城県内外の
生活支援コーディネーターおよび協議体の
取り組みを発信しながら、
住民や専門職・関係機関の意識を高め、
最後まで住み慣れた地域で暮らし続ける
社会づくりを目指します。

vol.4
2016.5



気仙沼市



DATA 気仙沼市

人口 66,249人
(2016年4月30日現在)
高齢化率 35.2%
新しい介護予防
日常生活支援
総合事業の実施 2016年4月
生活支援サービスの
体制整備の実施 2015年4月

東日本大震災からの復興を推し進める気仙沼市では、新たなまちが形成される地域を含め、自立した生活を送ることのできる地域づくりを目指し、「気仙沼市地域

サロン活動が急増中！ アクションプランも策定

包括ケア推進協議会（会長…森田潔 気仙沼市医師会会長、72団体で構成）を2014年12月に設立しました。この協議会には3つの専門部会が設けられ、テーマごとに現状と課題を共有。今後の方向性を踏まえて、特に協議体の構成団体が連携して取り組むことをまとめ、「気仙沼市地域包括ケアシステム構築に向けたアクションプラン」地域ぐるみの支え合い行動計画」として、16年3月に策定しました。団塊世代が75歳以上となる25年度を目標年度とし、すでに実践している取り組みを含めて、できることから行動に移していくことを、3月の総会で決議しました。

アクションプランは、「在宅医療・介護基盤の確保と連携の推進」「高齢者の健康維持・増進」「生活支援サービスの充実及び居住の安定確保」など6つの柱に沿って、69のプランで構成。「交流サロン」や「健康介護まちかど相談窓口」を推進拠点として位置づけ、地域ぐるみの支え合い活動の活性を目指します。

それに先行して、市では15年4月より、サロン活動に対する助成事業を始めました。週に1回程度、年間で最低20回程度以上を目標にサロンを定期開催する場合、運営費（開催1回あたり上限2千円）と賃借料（月額上限1万円）を助成します。これにより、自治会や有志による多様なサロンが生まれ、16年3月時点で市内のサロン活動は29か所になりました。

16年3月に開かれた協議会総会では、3つのサロンが活動を発表。病気のため閉じこもりがちになった人を地域で支えようと始まった「水梨かふえ」、シニアクラブの会員を中心に農作業など屋内外で交流する「森前いきいきサロン」、お店などが近隣になく気軽なお茶飲みの場をつくらうと始まった「青葉が丘お茶のみ会」の発表からは、多くの人が地域で集まり、おしゃべりをする場を待ち望んでいたことが伝わってきました。

市では、地域包括ケア推進協議会を、第1層の協議体にすることを検討しています。総合事業ではA型及び

C型サービスを実施予定で、1月に事業者向けの研修会を開き、3月から市民向けに広報を始めました。「すべてが手探りですが、気仙沼に合ったスタイルができれば」と市保健福祉部地域包括支援センター所長の尾形直子さんは話します。



3月26日に開かれた気仙沼市地域包括ケア推進協議会総会で、サロン活動を発表



水梨文化館で月2回開かれるサロン「水梨かふえ」



「森前いきいきサロン」の皆さんがつくった作品

知



の今

06

大崎市



DATA	
大崎市	
人口	133,552人 (2016年3月31日現在)
高齢化率	27.3%
新しい介護予防 日常生活支援 総合事業への移行	2016年10月
生活支援サービスの 体制整備の実施	2016年4月

2006年に1市6町が合併して生まれた大崎市は、当初より「まちはみんなでつくるもの」を合言葉に、地区ごとにワークショップを開いて話し合う基盤を築いてきました。14年4月には、市民と行政が互

柔軟な庁内連携で、地域の福祉力を高める！

いに知恵や情報を出し合い、ともにまちづくりを進めていくことを約束した「大崎市話し合う協働のまちづくり条例」を策定。この条例に基づき、独自に地域にコーディネーターを配置する計画を立てていた市民協働推進部まちづくり推進課と、今回の改正介護保険を受けて取り組みを検討していた民生部高齢介護課の目的が合致し、部課を横断した取り組みが動き始めています。具体的には、庁内の連携のもと、①持続可能な地域づくりと、②地域の福祉力の形成を活動目的とした「地域支援コーディネーター」を地区ごとに配置し、既存の地域組織を協議体と位置づけ、大崎市ならではの地域包括ケアを目指すものです。

「地域が第一」を貫く市では、第1層よりも第2層を重視。日常生活圏域は、旧6町と旧古川市を5区域として11圏域ある一方で、地域住民で構成される「まちづくり協議会」が概ね中学校区ごとに7つあり、その下に「地域づくり委員会」が概ね小学校区単位に37あります。そこで、第2層の協議体及び生活支援コーディネーターの設置においては、より住民の生活に密着して取り組めるよう、小学校区等の単位での配置を地域とともに検討しています。

高齡介護課では、16年2月よりまちづくり推進課とともに各まちづくり協議会を巡り、意見交換を行っていました。住民からは、「何をすればよいか?」「どういう補助があるのか?」などの具体的な質問が出て、高齢化率の高い地区ほど積極的です。「7地区を2回以上回った結果、住民さんと徐々に信頼関係が築けてきました」と高齡介護課地域支援係技術主査の伊藤真紀さん

知

配置を地域とともに検討しています。高齡介護課では、16年2月よりまちづくり推進課とともに各まちづくり協議会を巡り、意見交換を行っていました。住民からは、「何をすればよいか?」「どういう補助があるのか?」などの具体的な質問が出て、高齢化率の高い地区ほど積極的です。「7地区を2回以上回った結果、住民さんと徐々に信頼関係が築けてきました」と高齡介護課地域支援係技術主査の伊藤真紀さん

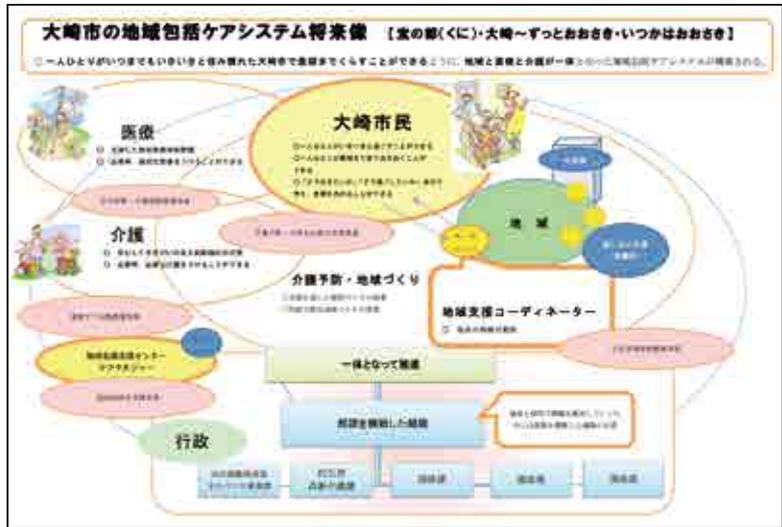


鳴子まちづくり協議会役員会との意見交換



高齡介護課地域支援係の皆さん。左から伊藤真紀さん、堀籠純さん、齋藤瞳さん

大崎市の地域包括ケアシステム将来像



地域訪問を重ねて 地域の資源 ・課題を発掘



◎福島県会津美里町

DATA	
人口	21,346人(7,295世帯) (2016年4月1日現在)
高齢化率	34.4% (2016年4月1日現在)
新しい介護予防 日常生活支援 総合事業の実施	2016年4月
生活支援体制 整備事業の実施	2015年10月

福島県会津美里町は、2005年10月、会津高田町、会津本郷町、新鶴村の3町村合併で生まれました。県西部の会津盆地に位置します。稲作を中心に野菜、果樹などを組み合わせた複合経営の農家が多く、農業が町の基幹産業です。人口は4月1日時点で2万1346人、高齢化率34.4%。町が今年3月策定した「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」によると、2040年には1万1090人、高齢化率47.5%と推計。一層進む人口減と高齢化を見据えた地域づくりが求められます。

町は2015年10月、第1層の生活支援コーディネーター1人を配置し、生活支援体制整備事業をスタートさせました。

●地域からの積み上げで 協議体へ

コーディネーターは、町高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター、町内に1か所設置）の社会福祉士が、その任に当たっています。なお、同センターの運営は、町が介護施設などを運営する社会福祉法人に委託。コーディネーターの配置も同様に同法人への委託業務となっています。

協議体は、今年4月末時点で未設置。町は、今年度中に設置することも視野に、場合によっては準備組織を立ち上げて具体的な調整作業を進める方針です。

当初は、第1層の協議体をまず設置し、その後さらに下の層へと展開していくことを想定していました。しかし、コーディネーターの活動成果を踏まえ、想定を見直そうとしています。

同事業を所管する町健康ほけん課の日吉祥晃課長は、「コーディネーターが昨年10月以降、地域訪問やサロンへの参加を通じて地域住民との関係を築きつつある。そうした活動をベースにして、地域ごとにキーマン（住民活動の担い



会津美里町健康ほけん課の皆さんと生活支援コーディネーター（左から日吉祥晃課長、新國智香生活支援コーディネーター、高木克哉主査、渡部雄二係長）

手）を掘り起こしていくことができそうだと語ります。それぞれの地域でキーマンたちが情報を持ち寄り、交換・共有する場をつくることを協議体発足への最初のアプローチにしたい考えです。

「第2層か第3層かまだわからないが、草の根レベルでの自主的な話し合いの枠組みをつくり、そこから協議体が生まれてくる形がいい。第1層協議体は、そうしてできた協議体の連携組織とする。地域からの積み上げで整備していきたい

たい」

協議体の設置圏域は、第1層が町全域、第2層は合併前の旧町村域（中学校校区に該当）を基本とします。つまり「高田地域」「本郷地域」「新鶴地域」の3地域ですが、本郷と新鶴の面積が約4千ヘクタールなのに対し、高田はその5倍近い約1万9千ヘクタール余りあるため、高田地域に複数の協議体を置くなど、多様な設置体制を検討中です。「あまり縛りを設けず、住民が自然に連携できる範囲を探りたい」と、成り行きによつて圏域や層構成を柔軟に設定することもあり得るとしています。

最終的に、各層各協議体1人ずつのコーディネーター配置を目指します。

●「お茶飲み」で地域を知る

地域からの積み上げ方式、柔軟な圏域・層設定などを町が考えるようになったのは、コーディネーターの活動から豊富な地域資源が見えてきたためです。

コーディネーターの新國智香さん（32歳）は、地域住民との関係づくりを進めつつ、高齢者の暮らしづくりを知るため、日々地域訪問をしています。

「まちを歩き、アポなしで家や商店を

訪ねます。どこにどんな貴重な情報を持つている人がいるかわからないので、あえて事前情報なしで訪問するようにしています」

「断られることもありますが、それは『防犯意識が高い家庭』と評価します。滞在時間は、相手の都合によりまちまち。10分に満たないときもあれば、それ以上もあります。」

「突然の訪問で相手を委縮させないよう、話しやすい雰囲気を中心掛けています」

お茶やお菓子、食事を振る舞われることもありますが、そうした場合、「できるだけいただくようにします。できないと信頼関係を築けません」。

会話の内容は、日々の生活の営みや生活上の工夫、その地域の住民同士のつながり、集落の歴史や文化などさまざまに分野に及びます。

聞き取った内容や新國さんが気づいたことは、メモとして記録し、町に報告。常に情報共有と連携を図っています。メモの内容は、たとえば次のようなものです。【老夫婦2人暮らし。野菜づくりをしている。自宅は近所のお茶飲み場。積雪期は、県内別所に住む家族のところ

で過ごす】。

地域のサロンにも顔を出し、参加者との関係づくりに努めます。地域やサロン活動について聞き取りをして、どんな課題があるか、どうすればさらに住民活動を発展させられるかなどを探ります。

コーディネーターとしての活動から、何が覚えてきたでしょうか。

「地域の皆さんが、隣近所の様子をお互いに気に掛け合っていることを強く感じます。1人暮らしかどうか、体調が良いか悪いか、通院しているかどうかなどをよく把握しています。家の照明の点いた・消えたを見ている人もいます。お互い気に掛け合うこと、支え合うことを住民活動として組織できれば、高齢になつても障がいがあつても、地域で暮らし続ける環境を整えられると思います」

町は、新國さんが集めた地域のお茶飲み場や、日常の暮らしのなかにある支え合いなどの事例を広く住民に知ってもらうとともに、同様の事例を住民自らが発掘・報告するためのワークシヨップを開く予定です。コーディネーター業務への理解を深めてもらうほか、

協議体の結成に向けた気運を盛り上げる狙いもあります。

地域資源の発掘を先行させ、草の根からの積み上げで協議体を整備していくのは、住民の力を最大限生かす方法と言えます。

利

生活支援コーディネーターのある1週間の動き

	月	火	水	木	金	土	日
午前	介護・認知症予防教室のPR	介護・認知症予防教室に参加	介護・認知症予防教室に参加	町健康ほけん課と打ち合わせ、その後地域訪問	地域訪問	休業(場合によって研修など)	休業(場合によって研修など)
午後	地域訪問	認知症および介護に関する住民勉強会に参加	介護・認知症予防教室に参加	介護・認知症予防教室に参加	地域訪問		

生活支援推進連絡会議の活動報告

させた「宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議」の昨年度の活動をご報告します。



1 連絡会議の開催

普及啓発や情報交換を行うため、行政、職能団体及び事業者団体等で構成される連絡会議を開催しました。

	日時	開催場所	出席人数	内容
第1回	10月16日(金) 13時30分～ 15時	KKRホテル仙台	100人 (市町村関係者も参加)	<ul style="list-style-type: none"> ○基調講演「地域包括ケアシステムにおける住民の参画」 講師:厚生労働省老健局振興課 課長補佐 川部 勝一 氏 ○趣旨説明「宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議について」 説明者:県保健福祉部長寿社会政策課長 村上 靖 氏 ○出席者紹介 ○情報交換
第2回	3月16日(水) 10時～12時	パレス宮城野	38人	<ul style="list-style-type: none"> ○2015年度活動報告 (運営委員会、市町村進捗状況、情報交換会状況、アドバイザー派遣状況、生活支援コーディネーター養成研修状況、情報誌、市町村取組状況) ○2016年度事業計画の概要 ○情報交換

2 運営委員会の開催

市町村支援のあり方や生活支援コーディネーター養成研修の内容について検討するため、毎月1回開催しました。



3 市町村への情報提供及び助言

11回

県内市町村の実態を把握するためのヒアリングを実施するとともに、情報提供や助言を行うため、アドバイザーを派遣しました。

市町村からの依頼による
アドバイザー派遣

訪問日	派遣先	講師	内容
12月10日(木)	白石市	大坂 純 氏	講演および 助言等
12月17日(木)	栗原市	高橋 誠一 氏	
1月14日(木)	蔵王町	大坂 純 氏	
2月19日(金)	村田町	大坂 純 氏	
2月24日(水)	丸森町	池田 昌弘 氏	
2月26日(金)	亘理町	志水 田鶴子 氏	
2月29日(月)	大崎市(午前・午後)	高橋 誠一 氏	
3月17日(木)	大衡村	志水 田鶴子 氏	
3月18日(金)	名取市	高橋 誠一 氏	
3月26日(土)	気仙沼市	池田 昌弘 氏	

2015年度 宮城県地域支え合い

宮城県内の地域支え合いと生活支援の取り組みを推進するため、2015年10月に県が発足

4 情報交換会の開催

7回

市町村担当者、地域包括支援センター職員及び生活支援コーディネーター等による情報交換会を開催しました。

新しい地域支援事業の円滑な実施に向け、圏域ごとに市町村担当者、県担当者、アドバイザーによる情報交換を実施し、併せて改正介護保険制度のねらいと新しい総合事業、生活支援体制整備事業についてアドバイザーから説明しました。



訪問日	圏域	アドバイザー
2月3日(水)	仙台保健福祉事務所 会議室	仙台(塩竈) 志水 田鶴子 氏/小野 哲 氏
2月3日(水)	仙台保健福祉事務所 岩沼支所	仙台(岩沼) 池田 昌弘 氏/鈴木 守幸 氏
2月5日(金)	気仙沼保健福祉事務所 大会議室	気仙沼 高橋 誠一 氏/池田 昌弘 氏
2月9日(火)	石巻合同庁舎 仮設001会議室	石巻・登米 志水 田鶴子 氏/鈴木 守幸 氏
2月12日(金)	大河原合同庁舎 別館第1会議室	仙南 大坂 純 氏/渡邊 典子 氏
2月15日(月)	大崎合同庁舎 502会議室	大崎・栗原 志水 田鶴子 氏/渡邊 典子 氏
2月15日(月)	仙台保健福祉事務所 黒川支所会議室	仙台(黒川) 志水 田鶴子 氏/小野 哲 氏

5 生活支援コーディネーター養成研修の開催

プログラムを大きく3段階に分けて開催し、受講者は延べ1,402人。研修3までの受講修了者は255人でした。アンケート結果など詳しい報告は、前号を参照ください。



研修1 初級研修	【角田会場】	12月 4日(金)	104人
	【石巻会場】	12月 11日(金)	117人
	【仙台会場】	1月 8日(金)	212人
	【気仙沼会場】	1月 28日(木)	72人
	【大崎会場】	1月 29日(金)	77人
	【登米会場】	2月 1日(月)	42人
	【栗原会場】	2月 2日(火)	127人 計751人
研修1-2 「地域福祉コーディネート基礎・実践研修」受講のための事前研修	【仙台会場】	12月21日(月)～22日(火)	104人 104人
研修2 地域福祉コーディネート基礎・実践研修	【仙台会場①】	1月 6日(水)～ 7日(木)	108人
	【仙台会場②】	1月21日(木)～22日(金)	184人 計292人
研修3 生活支援コーディネート基礎・実践研修	【仙台会場①】	2月22日(月)～23日(火)	150人
	【仙台会場②】	3月14日(月)～15日(火)	105人 計255人

受講者は延べ 1,402人

6 情報紙「MIYAGIまちづくりと地域支え合い」の発行

宮城県内外の生活支援コーディネーターおよび協議体の取り組みを発信する情報紙を11月30日創刊(A4判・8頁・中綴じ・12,000部)。隔月で発行したほか、事業説明パンフレットを作成して県内に配布しました。



「生活支援コーディネーター養成研修」のご案内

生活支援コーディネーターは、市区町村域（第1層）や中学校区域（第2層）に配置されることが想定されており、地域のさまざまな団体や機関における住民・専門職との協働や、配置先の関係者との協働が求められています。こうした特性を活かすため、宮城県では、この研修を生活支援コーディネーターとして配置された人たちのみを対象とするのではなく、住民や専門職も一緒に受講して、チームで暮らしやすい地域づくりが進められる体制づくりを目指します。

★受講必須



研修1 【半日研修】

初級研修

- 目的と内容：介護保険の改正の趣旨、新しい総合事業と生活支援サービスの体制整備（協議体の設置と生活支援コーディネーターの配置）を含む地域支援事業とは何かを学びます。
- 対象：協議体の構成員や生活支援コーディネーターのほか、自治会・町内会や地区社会福祉協議会のリーダーなど住民、民生委員・福祉委員、行政や地域包括支援センター・社会福祉協議会などの専門機関、居宅介護支援事業所などの事業所や専門職。

★受講選択



研修1-2 【2日間研修】

「地域福祉コーディネート基礎・実践研修」 受講のための事前研修

- 目的と内容：地域福祉コーディネート基礎・実践研修を受講するにあたり、その理解促進のために事前研修を実施します。
- 対象：地域福祉コーディネート業務の未経験者や各種の国家資格等の未取得者など。

★受講必須



研修2 【2日間研修】

地域福祉コーディネート基礎・実践研修

- 目的と内容：生活支援コーディネーターの活動の基盤となる地域福祉コーディネートの基礎と実践（コミュニティワークの理解、社会資源の開発など）を学びます。
- 対象：研修1と同じ。（生活支援コーディネーターの任にあたる方を優先します。）

★受講必須



研修3 【2日間研修】

生活支援コーディネート基礎・実践研修

- 目的と内容：制度改正の趣旨、協議体の設置と運営、生活支援コーディネーターの役割と具体的な活動、地域資源の把握と開発の方法などを体系的に学びます。
- 対象：研修1と同じ。（生活支援コーディネーターの任にあたる方を優先します。）

	前期日程	後期日程	講師
会場・日時	研修1 【栗原会場】 5月19日(木) エポカ21(くりはら交流プラザ) 【仙台会場】 5月26日(木) 戦災復興記念館 【大河原会場】 5月27日(金) 大河原合同庁舎 ☆研修時間 【13:00～16:30】 定員各80人	【大崎会場】 9月15日(木) 大崎建設産業会館 【仙台会場】 9月20日(火) 宮城県自治会館 【石巻会場】 10月6日(木) 石巻市河北総合センター(ビッグバン)	高橋 誠一氏 東北福祉大学 総合福祉学部 教授 志水 田鶴子氏 仙台白百合女子大学 人間学部 准教授 池田 昌弘氏 全国コミュニティライフサポートセンター 理事長
	研修1-2 (両日)【9:30～16:30】 定員各100人	【仙台会場】 5月31日(火)～6月1日(水) 東京エレクトロンホール宮城	【仙台会場】 10月31日(月)～11月1日(火) エスポールみやぎ 永坂 美晴氏 明石市望海在宅介護支援センター センター長 山本 信也氏 宝塚市社会福祉協議会 地域福祉部 地区担当課長 岩城 和志氏 淡路市社会福祉協議会 参事兼 地域支え合いセンターいちのみや センター長
	研修2 (両日)【9:30～16:30】 定員各100人	【仙台会場】 6月16日(木)～17日(金) 宮城県自治会館	【仙台会場】 11月17日(木)～18日(金) エスポールみやぎ 藤井 博志氏 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授 井岡 仁志氏 高島市社会福祉協議会 事務局長
	研修3 (両日)【9:30～16:30】 定員各100人	【仙台会場】 7月14日(木)～7月15日(金) 宮城県自治会館、仙台商工会議所	【仙台会場】 2月13日(月)～14日(火) 宮城県自治会館 高橋 誠一氏 東北福祉大学 総合福祉学部 教授 大坂 純氏 仙台白百合女子大学 人間学部 教授 志水 田鶴子氏 仙台白百合女子大学 人間学部 准教授 (ほか)

※前期研修はすべて定員に達しました。

■申し込み&お問い合わせ先 全国コミュニティライフサポートセンター(CLC):TEL 022-727-8730

住み慣れた地域で暮らし続けるためのお宝探し情報紙

Miyagi まちづくりと地域支え合い vol.4

バックナンバーがホームページで読めます http://www.clc-japan.com/sasaesai_m/

発行日 2016年5月30日

編集 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議

発行 特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター (CLC)

〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F

TEL:022-727-8730 FAX:022-727-8737

E-mail clc@clc-japan.com URL <http://www.clc-japan.com>